

# 日本診療放射線技師会・日本放射線技術学会 公開合同セミナー

「医療機関における患者被ばく線量の管理－診療放射線技師の果たす役割－」

公益社団法人日本診療放射線技師会

公益社団法人日本放射線技術学会

日本診療放射線技師会と日本放射線技術学会が共同で開催する公開合同学術セミナーは、第 10 回となりました。今年は、「医療被ばく」をテーマに取り上げます。

平成 22 年 3 月に医療被ばく研究情報ネットワーク (Japan Network for Research and Information on Medical Exposures : J-RIME) が設立され、医療被ばくにおける診断参考レベル(Diagnostic Reference Levels:DRL)の国内導入に向けて取り組みを開始しました。昨年 6 月に J-RIME としての DRL がまとまり、事実上の国内で標準化された DRL 策定が実現しました。診療放射線技師は最適化の観点から、医療の質を考えながら日々医療被ばくの低減に努めています。さらに、患者さんが安全で安心できる放射線診療の提供に努力しています。今回のセミナーでは、日本診療放射線技師会と日本放射線技術学会から、DRL を含め医療被ばくに対して、診療放射線技師はどのような取り組みを行っているのか、それぞれの立場で講演をしてもらいます。その中で、診療放射線技師の果たす役割について理解を深めることができると考えています。本セミナーは一般の方もご参加いただけますので、ぜひ多数ご参加いただきますようお願いいたします。

## 記

テーマ : 医療機関における患者被ばく線量の管理－診療放射線技師の果たす役割－

日時 : 2016 年 8 月 27 日 (土) 13:30~16:30

会場 : AP 東京八重洲通り

〒104-0031 東京都中央区京橋 1 丁目 10-10-3 K P P 八重洲ビル

参加費 : 一般 無料 会員 1,000 円 (事前申込不要)

プログラム : 開催挨拶

公益社団法人日本診療放射線技師会 会長 中澤 靖夫

公益社団法人日本放射線技術学会 代表理事 小倉 明夫

基調講演「わが国における診断参考レベルの概要－エビデンスベースでの対話に向けて－」

量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所

放射線防護情報センター神田 玲子 先生

シンポジウム「医療機関における患者被ばく線量の管理－診療放射線技師の果たす役割－」

司会 : JSRT 学術委員長 熊本大学大学院 白石 順二

JART 学術担当 愛知医科大学病院 中村 勝

1) 診断参考レベル (DRL) の活用とその問題点について (仮題)

NTT 東日本関東病院 塚本 篤子 (JSRT 防護部会長) (JSRT)

2) 医療被ばくガイドラインの設定について

市立横手病院 藤原 理吉 (医療被ばく安全管理委員会副委員長) (JART)

3) 医療被ばく低減施設認定の取り組みについて

ベルランド総合病院 鈴木 賢昭 (医療被ばく安全管理委員会委員長) (JART)

4) 画質を考慮した患者被ばくの管理について (仮題)

奈良県立医科大学附属病院 中前 光弘 (JSRT 撮影部会) (JSRT)

総合討論

後援 : 厚生労働省、医療被ばく研究情報ネットワーク(J-RIME) (未定)